

# 銀座六丁目の立体路地



一見華やかなイメージの銀座は、昔から「裏路地」によって支えられてきた。これは、銀座特有の「路地」を再解釈して建築化することで、多様なプログラムや居場所をゆるやかに繋ぎ、銀座の表と裏や裏同士を程よい距離感で共存させ、継続的に使っていくための仕組みの提案である。

## ◆全体鳥瞰図



## ◆分析：銀座の街と路地



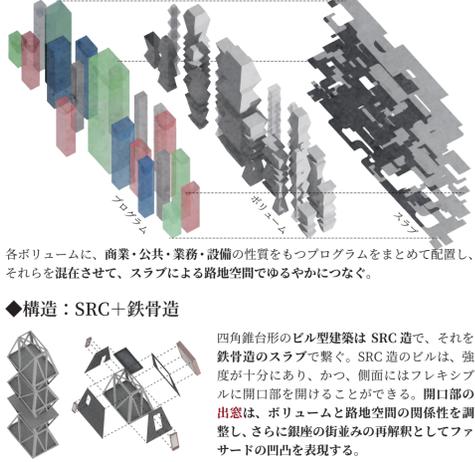
本敷地は大通りから二本入った裏通りに位置する。大通りには、近年の再開発によって華やかな商業施設が立ち並び一方で、裏には今も多くの路地が残っており、ひっそりと銀座の街や人を支えている。

## ◆分析：路地の歴史と類型



銀座の路地の歴史は、東海道の路面の裏に路地を張り巡らせて庶民の住宅需要に応えた江戸時代に通る。明治の大火後、表通りの背後に裏通りが敷かれ、さらに明治時代に、表通りから裏通りへ、横丁から横丁へと繋がる路地が敷かれた。現在の路地は、放置自転車やゴミ箱が置かれていて、通り抜けや喫煙にしか利用されていない。しかし、路地は銀座特有の魅力的な都市空間である。そこで、六丁目目現存する路地の類型を抽出し、本提案の設計に生かす。

## ◆設計：プロセス



## ◆設計：構成ダイアグラム



## ◆設計：ボリュームの組み合わせと「路地」



## ◆設計：中間領域としての「路地」



## ◆断面パース



## ◆路地空間 1：内部セミプライベートスペース



## ◆路地空間 2：屋外カフェスペース

